

Sutrum

シュトゥルム

第12号平成23年6月30日発行

梅雨の晴れ間には30度を超える蒸し暑さですが、節電のご時勢、家電量販店には扇風機がズラリと並んでいます。近づく夏本番、暑さ対策にもクラシック音楽はいかがでしょうか。選曲には多少気をつける必要はありますが、ヴァイオリンの涼やかな音色は、きっと体感温度を下げしてくれることでしょう。ぜひお試しください。



ウエストミンスター寺院

近況報告

先日、私の今居るロンドンのウエストミンスター寺院（ウィリアム王子が結婚式をあげたところ）で行われた東日本大震災追悼式に参加してきました。式はミサスタイルで、司祭の祈りや聖書朗読、追悼演奏等の間に、被害の様子のレポートや、宮沢賢治の詩の朗読などが行われ、その中でも、日本山妙法寺の僧侶による読経が、壮大なゴシック様式の、美しいステンドグラスに囲まれた礼拝堂に響き、こだまする様子がとてもしっくりとマッチして、心に響いたことに、死者を悼む気持ちは宗教を超えるのかなと感じました。

新聞に「がんばれ日本」と日本語でメッセージを載せた、ここイギリスを始めウィーンでも、ヨーロッパ各地で震災のためのチャリティーコンサートが、いたるところで開催され続けていますが（ハウスコンサート等、個人の活動もとても多くみられます）どんなコンサートでもアーティストたちが口をそろえることは、音楽を奏でることで祈りをささげ、協力することができて良かったということです。音楽は人を癒し、励ますことができ、とても大きな力を持っていることをあらためて感じながら、これからも微力ながら復興への手助けができればと、私を始め多くの音楽家が願いつつ、活動を続けていこうと思っています。

【伊都】



国会議事堂でお友達と

第4回イギリス館コンサート

別紙のご案内の通り、今年もまた TRAUBEN 主催のイギリス館コンサートを開催します！8月15日はお盆の最終日ですが、皆さんの夏休みとうまく合いますでしょうか。海風に誘われて、極上の音楽と冷えたワインで真夏の夕べをお楽しみください。演奏曲は、今回は伊都さんが滞在しているイギリスにちなんだ作曲家の曲、ヘンデル：ヴァイオリンソナタ、エルガー：愛の挨拶、また、震災への祈りをこめて、ラフマニノフ：ヴォカリーズ、グノー：アヴェ・マリア、エルンスト：夏の名残のバラ（日本名「庭の千草」）などが予定されています。

座席数は昨年と同じく50席となっており、予約受付は7月15日（金）からですが、後援会会員の皆様には2週間早く7月1日（金）から先行予約受付を開始します。どうぞお早目にお申込みください。



近くの公園のスクリーンに映し出された皇太子の結婚式



いとちゃんの
クラシック講座

op.11

伝統と、新しいスタイル、そして様々な国の文化が入り混じる、刺激に満ちた街、ロンドンは、クラシック界でも、今最も旬な演奏家たちが、我先にとコンサートを行い、楽しみに事欠かない、一大音楽都市でもあるのですが、実は、イギリスは、世界の7つの海を制覇し、大英帝国の名をほしいままにした時代もあったのにも関わらず、傑出した作曲家を生んでいないことでも有名です。

その理由は17世紀半ば、バロック音楽全盛期に清教徒革命が起き、厳格な独裁政治家として知られる、クロムウェル（前述のウエストミンスター寺院の前に大きな銅像があります）が、音楽は人間を墮落させるものとして、徹底的な禁止令を発令したため、約半世紀にわたって、なんと教会の賛美から、旅芸人にいたるまで、人前で音楽を演奏する光景がなくなり（もちろん、教えることも習うことも禁止されていました）次世代への文化が継承できなかつたためといわれています。

その中で、イギリスの第2の国歌と言われている、「威風堂々」を作曲家したエドワード・エルガー（1857～1934）は唯一といっても過言ではない、イギリスを代表する作曲家であり、ヴァイオリン曲「愛の挨拶」でも知られていますが、ロンドンで毎年夏に開催される、世界有数の大音楽祭「プロムス」の最終夜は、この「威風堂々」を最後に演奏するのが恒例で、これを聞くのがイギリスに住む、また世界中のクラシックファンの憧れになっています。

【伊都】

D V D C l a s s i c C o l l e c t i o n



作品 No.9

「ミュージック・オブ・ハート」

—Music of the Heart—

1999年アメリカ



ストーリー

1980年、夫と別れたロベルタは二人の子どもを連れ、ニューヨーク、イーストハーレムの公立小学校で臨時教師としてヴァイオリンを教え始めた。複雑な家庭事情のスラムの子ども達にヴァイオリンを通して自分に誇りを持つことを教え、10年後には生徒は150人になるが・・・アメリカで感動を呼んだ実話の映画化。

見どころ

この作品でもアカデミー主演女優賞にノミネートされた常連、メリル・ストリープの主演。圧巻はカーネギーホールで子ども達と共演するアイザック・スターン、イツァーク・パールマン、ジョシュア・ベル…といった特別出演のヴァイオリニスト達。実話では五嶋みどりも出演したとか。

感想

ヴァイオリンクラスの存続をメディアに訴え、教育委員会と闘った先生もアメリカ的で強いなあ、と思うが、超有名演奏家がこぞってチャリティーに協力するのもやっぱりアメリカ。話につい引き込まれて感動してしまったが、よく考えればちょっとした「いい話」？ スズキ・メソードの練習曲は伊都さんにも懐かしいはず。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

災害義援金寄付のご報告

前号でお知らせした通り、東北大震災義援金として20,000円を4月25日、日本赤十字社に「加納伊都後援会」の名前で寄付いたしました。別紙の22年度会計報告書に記載のように、これには親睦会の予算を充当しましたのでご了承下さいますようお願い致します。

編集後記

先日TVで、佐渡裕さんがベルリンフィルを指揮したドキュメンタリー番組を見ました。小学校の文集で「ベルリンフィルの指揮者になる」と書いて40年、夢を持ち続けてほしいというメッセージを東北の被災地の子ども達に、小学校を回って伝えたとのこと。これまでベルリンフィルで活躍してきた日本人は、小澤征爾さんや昨年コンサートマスターに就任した榎本大進さんをはじめ何人もおられます。考えてみれば、日本にクラシック音楽が入ってまだ百数十年。もともと器用で繊細、勤勉な日本人だからこそ活躍なのかもしれませんね。もちろん伊都さんも頑張っていますよ！ <ゆ>

発行：加納伊都後援会 T R A U B E N

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email：itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp
Homepage：http://www.ito-vn.jp/